

平成16年10月21日

委員長コメント

1. 今回の報告期間は平成16年6月28日から9月26日までの約3ヶ月である。
法定報告に基づく新規HIV感染者報告数は209件で過去最高となった。
〔前年同時期152件/これまでの最高199件(平成16年4月～6月)〕
新規AIDS患者報告数も126件で過去最高であった。
〔同71件/同106件(平成15年10月～12月)〕
2. 性別に見ると、HIV感染者報告数209件のうち182件(約87%)、AIDS患者報告数126件のうち110件(約87%)を男性が占めており、男性のHIV感染者及びAIDS患者の動向が全体の動向を左右している。
3. 感染経路別に見ると、HIV感染者では同性間性的接触によるものが男性120件(感染者全体の約57%)と最も多く、異性間性的接触によるものは58件(約28%)で、内男性39件・女性19件であった。
一方、AIDS患者では同性間性的接触によるものが男性44件(患者全体の約35%)、異性間性的接触によるものも44件(約35%)で、内男性34件・女性10件であった。
4. 年齢別に見ると、HIV感染者では20代・30代の占める割合が高く、感染者全体の約76%(158件)を占めている。
一方、AIDS患者では患者分布はHIV感染者より高年齢層に広がっているが、今回17件(内日本国籍13件)の20代の患者報告があった。これらは10代で感染したと推測され、若年層への感染の拡がりを示唆するものである。今後の若年層の患者報告の動向に注目する必要がある。
5. 平成16年7月から9月末までの保健所におけるHIV抗体検査件数は16,607件(前年同時期13,732件)自治体が実施する保健所以外の検査件数は5,111件(同4,119件)保健所における相談件数は34,168件(同30,743件)であった。昨年に比べていずれも増加しており、検査・相談に対するニーズが増えていることがうかがえる。
6. 平成16年1月から9月の献血件数(速報値)は4,097,758件で、そのうちHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数は73件(昨年同時期48件)であった。10万件当たりの陽性件数は1.781件であり、陽性頻度が増加している。

7．今回の報告では、H I V感染者、A I D S患者報告のいずれも四半期の報告として過去最高となり、特に、千葉県、埼玉県、東京都、静岡県、愛知県からのA I D S患者報告の増加が顕著であった。これらのA I D S患者は、発症によりはじめてH I V感染が発見された人たちであると思われる。

したがって、都道府県等においてはこれまで以上に、保健所を中心に、利用者の利便性（例えば時間帯など）に配慮した検査・相談事業を推進し、H I V感染の早期発見による早期治療と感染拡大の抑制に努める必要がある。加えて、利用者の要求に適切に対応できるよう、積極的に迅速検査を導入していくことも必要である。

また、普及啓発については、12月1日の世界エイズデー等のあらゆる機会で推し進める必要がある。

平成16年10月21日

エイズ動向委員会の結果報告について

1 本日の委員会では、平成16年6月28日より平成16年9月26日までの感染症法に基づく患者・感染者報告並びに平成16年7月1日から平成16年9月30日までの任意報告を解析した。

2 平成16年6月28日より平成16年9月26日までの間に感染症法に基づき報告された新規エイズ患者数は126件、新規HIV感染者数は209件であった。

患者126件、感染者209件の内訳は、

感染原因別では、異性間の性的接触による患者44件、感染者58件、同性間の性的接触による患者44件、感染者120件、静注薬物濫用による感染者1件、母子感染による患者1件、その他の原因による患者2件、感染者7件、原因不明の患者35件、感染者23件であった。

性別では男性患者110件、感染者182件、女性患者16件、感染者27件であった。

年齢区分別では、患者は10代1件、20代17件、30代43件、40代33件、50歳以上32件、感染者は、10代3件、20代73件、30代85件、40代26件、50歳以上22件であった。

国籍別では日本人患者100件、感染者180件、外国人患者26件、感染者29件であった。

感染地域別では、国内で感染した患者81件、感染者172件、海外で感染した患者18件、感染者12件、感染地域不明患者27件、感染者25件であった。

3 患者126件、感染者209件のうち

異性間の性的接触による患者44件、感染者58件のうち日本人男性は、患者32件、感染者36件、日本人女性は、患者7件、感染者12件であった。

また、外国人男性は、患者2件、感染者3件、外国人女性は、患者3件、感染者7件であった。

同性間の性的接触による患者44件、感染者120件のうち日本人男性は、患者39件、感染者113件であった。

また、外国人男性は、患者5件、感染者7件であった。

日本人男性患者93件のうち20代9件、30代31件、40代25件、50歳以上28件、日本人男性感染者165件のうち、10代2件、20代56件、30代

69件、40代20件、50歳以上18件であった。

また、日本人女性患者7件は20代4件、30代1件、40代1件、50歳以上1件、日本人女性感染者15件のうち、20代6件、30代4件、40代2件、50歳以上3件であった。

外国人男性患者17件のうち、30代7件、40代7件、50歳以上3件、外国人男性感染者17件のうち、20代5件、30代7件、40代4件、50歳以上1件であった。

また、外国人女性患者9件のうち、10代1件、20代4件、30代4件、外国人女性感染者12件のうち、10代1件、20代6件、30代5件であった。

国内感染による患者81件のうち日本人男性が69件、日本人女性が4件、外国人男性が6件、外国人女性が2件であった。

また、国内感染による感染者172件のうち日本人男性が148件、日本人女性が13件、外国人男性が8件、外国人女性が3件であった。

海外感染による患者18件のうち日本人男性が7件、日本人女性が3件、外国人男性が4件、外国人女性4件であった。

また、海外感染による感染者12件のうち日本人男性が4件、日本人女性が1件、外国人男性が1件、外国人女性が6件であった。

4 任意報告により

キャリア等からエイズ患者になったとの報告1件であった。

患者・感染者の死亡6件はエイズが原因が4件、その他の原因が2件であった。

死亡報告6件のうち、30代1件、40代2件、50歳以上3件であった。

5 平成16年7月から9月末までの保健所におけるHIV抗体検査件数は16,607件、自治体を実施する保健所以外の検査件数は5,111件、保健所における相談件数は34,168件であった。

6 平成16年1月から9月末日までの献血件数4,097,758件(速報値)のうち、HIV陽性件数は73件であった。